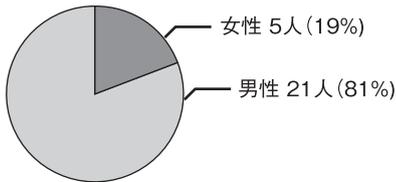


修士論文・調査研究レポート 緊急アンケート

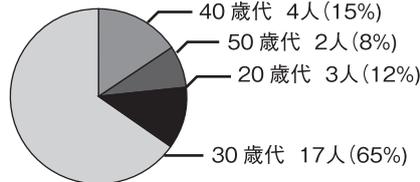
8期生
アンケート

BizComではRBSの修了要件である研究報告(修士論文、調査研究レポート)に直近まで取組んだ8期生の皆様にRBSアンケート調査をお願いしました。お忙しい中、26名の方より回答を得ることができました。耳の痛いアドバイスやこれからのRBSのために考えるべきことなど盛り沢山です。MBA学位を取得するために大いに参考にいただければ、編集部としてもうれしい限りです。

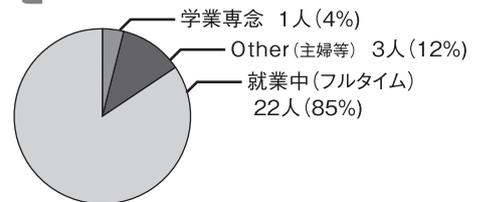
Q1 あなたの性別は?



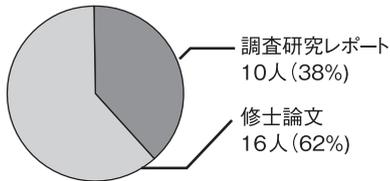
Q2 あなたの年齢は?



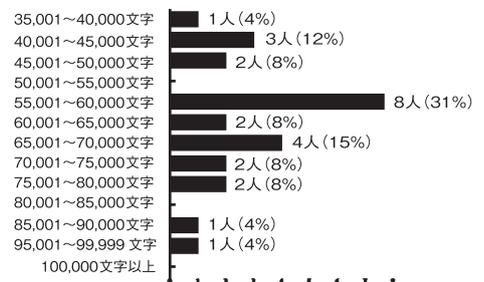
Q3 現在の状況を教えてください。



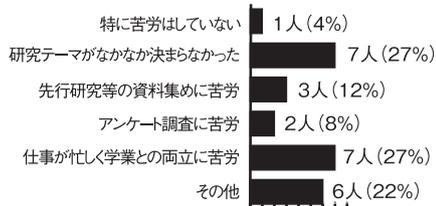
Q4 2年次の研究報告(ゼミ等)は何を選びましたか。



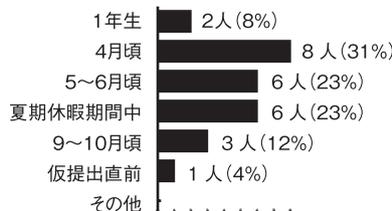
Q5 Q4で修士論文または調査研究レポートを選ばれた方に質問です。総文字数を教えてください。



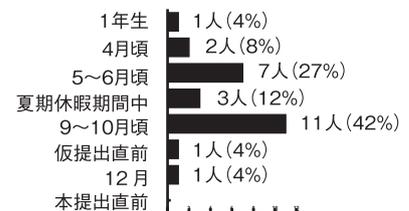
Q6 2年次の研究報告を作成していく上で最も苦労されたことは?



Q7 研究テーマの確定した時期はいつ?



Q8 研究報告書(論文等)を書き始めた時期はいつ?



Q9 研究報告を進めていく上で、工夫をされたことや9期生へのアドバイスがありましたらご記入ください。(参考にされた図書などお聞かせください)

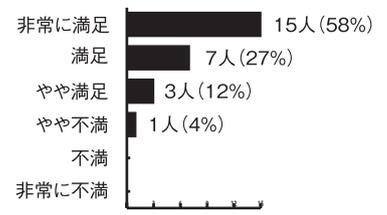
Aさん 「1年の春休みの内に先行文献は読めるだけ読んでおく。2年になると授業も再開し、なかなか読む時間がない。今のうちにパワーポイント30枚~40枚程度に、骨子 [研究の背景・目的、環境分析(3C分析、SWOT分析、PEST分析)、研究の進め方、マイルストーン等] を作っておき、徐々にブラッシュアップしていく。最終的には、口頭試問当日に使う資料(10

枚程度)に仕上げる。パワーポイントで要旨をまとめておくと、それに肉付けて本文を書けばよいので、本文が非常に書きやすくなる。4月頃には、一旦目次を作成する。目次を基に研究を進め、目次もブラッシュアップしていく。」

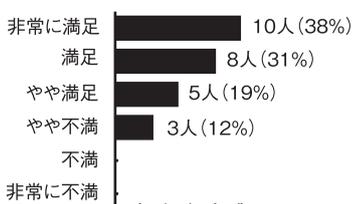
Bさん 「『思考の整理学』この本は、論文の書き方や心構えを示している。」

Cさん 「一日一行でも良いのでコツコツと書き溜めること。」

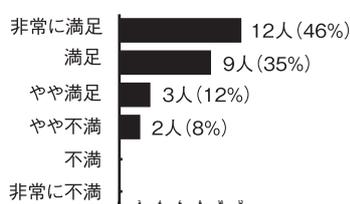
Q10 研究室(ゼミ)の研究テーマに対する指導についての満足度は?



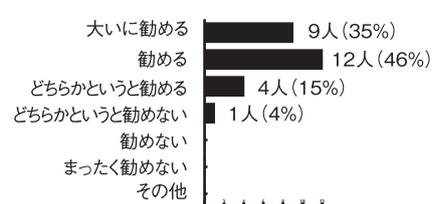
Q11 RBSにおける生活環境(図書館・ネット環境・SPSS・PC等)についての満足度は?



Q12 RBSでの研究活動についての満足度は?



Q13 後輩や友人にRBSを勧めますか?



Q14 RBSで得た学びや大事だと思うものを3つ教えてください。

Aさん「戦略・仲間・努力」

Bさん「①恩師 ②学友 ③努力」

Cさん「①先生、同期、先輩、後輩、お世話になった企業の方々との人脈。②修士論文に一生懸命打ち込み、その先にある達成感、充実感を味わうこと。(それが今後の仕事、人生に必ず役に立つと実感。③RBSで学んだことをどのように今後の仕事や人生に活かしていくか。しっかり考えること。」

Dさん「自分から一歩踏み出す(単位に縛られない)」、「学んだ事を実業で使う事-机上はすぐ忘れてしまう。」

Eさん「論理的思考」、「プレゼン能力」、「高いレベルのビジネスパーソンとの出会い」

Fさん「共に学ぶ姿勢」(すぐ競争してしまいますから)、「競争相手は自分自身である」(他人と自分を比較する傾向があるから)、「社会人であると同時に学生で

あるという自覚」(学生としての研究生生活ではやはり自分自身の自己性を再確認することだと思いますから) ビジスマンに求められるコミュニケーション力を兼ね備えることはもちろんですが、それ以上に自分が学生である自覚の上、人の話を尊重して耳を傾ける姿勢が何よりも重要だと思います。

Gさん「先生から学ぶ」「同級生から学ぶ」「自分で学ぶ」

Hさん「同期などのネットワーク&同年代のビジネスパーソンから受ける刺激&絶えない向上心」

Iさん「人脈・文章力(用語)・表現力(説明力)」

Jさん「①積極的にインプットを求めること ②知らないことを知らないと認めること ③MBAとしての知識」

Kさん「①他業種との交流・友情 ②論理的思考 ③体力・気力」

Q15 今後 RBS がより素晴らしいビジネススクールになっていくために、ご意見、ご提案などあれば自由にご記入ください。

Aさん「様々な人が集まる中でそれを認め合う土壌ができれば、さらに良くなっていくと感じます。」

Bさん「授業を選ぶ際に、授業の中身や、先生の雰囲気は履修要項だけではよくわからなかったのでより選択しやすい基準があると良い。」

Cさん「英語力の向上を加える、入学試験及び修了要件に導入。」

Dさん「①土曜日の授業を充実させる。土曜日も平日と同様に 21:40 まで授業を行う。平日なかなか授業に通えない人が多く、土曜を有効利用したいと思っている人が多い。②RBSで学んだことを活かし、卒業生が活躍すること。」

Eさん「①一部の先生の入れ替え(いい先生と「おいおい先生」のギャップが激しい) ②討議式の授業増加 ③英語の授業」

Fさん「教授陣が弱すぎる。専任を増やすべき。奇麗事抜きで名前の通った人物を

置いておいてほしい。」

Gさん「入学時にそれぞれが明確な目的意識を持って入ると、この学校のカリキュラムの幅広さや、学生間の多様な人間関係づくりが充実するのではないのでしょうか。学生の間には、「教員のビジネス感覚が不十分だ」とか「カリキュラムが面白くない」といった言葉が出てくることもあります。それは逆せば目的意識に照らした入学目的が形成されていないことと同じと思うわけです。自分にとって何がメリットかを明確にして2年間を過ごされることが大切だと思います。」

Hさん「希望するゼミナールに入れるような体制になるともっと良くなるのではないかと思います。」

Iさん「2年制から3年制へ(1・2年目は座学、3年目で研究報告)」

8期生

ビジネスプラン発表

中山卓亮さん
インタビュー

1. ビジネスプラン報告会を終えた現在の心境は？

無事終わることができ、ホッとしたというのが正直なところです。

2. プランのテーマを決めた時期から報告会までの、大まかなプロセスと時期について教えてください。

最終的にテーマを決めたのは4月です。テーマ自体は以前よりアイデアがあったため、大枠のビジネスモデルはその時点でイメージはありました。ビジネスモデルのブラッシュアップを続けると同時に、春は市場や業界の調査分析から、モデルの妥当性検証を中心に行いました。夏ごろには調査・検証した素材をまとめ妥当性を確立し、具体的なサービスに繋げて行き、秋口にはこれまでの素材とサービスを提案書ベースに落とし、仮提出を済ませました。(完成度は70%程度)以降は、本提出ギリギリまで調整を続けました。

意識したのは、事業計画書のストーリー性。プラン内容である Web サービスに明るくない人にも分かり易く、魅力的だと感じてもらえるような流れを意識していました。

3. プランを作成する上で注意したこと、苦労したことを教えてください。

作成はそれほど苦労はしていませんが、出来るだけ客観的な視点を取り入れることを意識しました。プランは自身の専門である Web ビジネスでしたので、専門的な視点に偏

らないようにするためです。先に挙げた、計画書及びプレゼンのストーリー性もその一つですが、その辺りは、先生方をはじめ、8・9期生、友人、家族へのプレゼン&ディスカッションを重ねることでブラッシュアップできたように思います。今年度のプラン提出は私ひとりでしたが、本当に多くの人に支えられたことで、やり遂げることができたものと改めて感じております。



4. これからプラン作成を志す9期生に、熱きメッセージを！

大学院の授業の一つですが、それに留まらないプランにしたいです！つまり、実際に実現(起業)できるようなビジネスモデル。私もそれを強く意識して取り組んでおりました。考え方はそれぞれかと思いますが、せっかくのビジネススクールです。志は高い方がきっとモチベーションも上がるのではないのでしょうか。学んだことやこれまでの人脈をフルに生かした、楽しく面白いプランを創りあげていただきたく思います。皆さま自身が納得できる成果となることを、心よりお祈り申し上げます。

(インタビュー：桐畑 博史)